

令和7年度京都市民健康づくり推進会議 摘録

1 日時 令和8年2月2日（月）午後2時～午後3時15分

2 場所 京都府医師会館 211会議室（Zoom 併用）

3 次第

(1) 開会挨拶 京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進担当局長 八代 康弘

(2) 議事

① 京都市 健康長寿・口腔保健・食育推進プランに基づく取組について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料3、資料4及び資料5に基づき、京都市各局、各区役所・支所における令和6年度取組実績と令和7年度取組予定について説明。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 各団体の取組について御報告をお願いしたい。
京都府薬剤師会 河野委員	<ul style="list-style-type: none"> 報告の前に質問をしたい。非常に目を引いたのが、右京区役所で実施された「企業と連携した健康アプリを使用した健康づくり」。どのようなアプリを活用されているのかなど、取組の詳細を教えてください。 例えば、健康保険組合で利用されているもののように、脂質や食事についてフィードバックが得られたりするのかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 「つれづれめぐり」というパナソニックホールディングス株式会社が開発するアプリで、歩数を記録するだけでなく、地域のおすすめスポットを投稿できる機能や記事やコメントを投稿できる機能を搭載している。御質問いただいた健康状態などのフィードバック機能については、すぐに確認できないため、改めて回答させていただく。
京都府薬剤師会 河野委員	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。京都府薬剤師会の活動として、様々な試みをしているところだが、先ほど京都市で実施している歯周疾患予防健診について、25歳と35歳を対象に追加したとの報告があった。大学生でも歯周病の予備軍が見受けられることもあり、当会が行う大学5校の講義で同健診や歯周病の啓発チラシを配布した。3月には新たに2校追加し、合計7校で実施する予定。この講義自体は、大学生を対象としたオーバードーズ、いわゆる薬物乱用防止に関する啓発として京都市から委託を受けたものであり、異なる分野どうしの取組を組み合わせている。文部科学省から各大学の学長宛てに、大学生における様々な危険（例：ゲームが薬剤となること）について相談できる体制を大学内で整えるよう指示が出ているところ。これに従い、薬

<p>議長</p> <p>京都府薬剤師会 河野委員</p>	<p>物乱用についても、具体的な薬物の内容を詳細に説明するのではなく、「どうすればよいか、どこに相談すればよいか」という情報提供を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。現在の薬剤師会の取組について紹介いただいたが、厚生労働省でもいわゆる薬機法、医薬品医療機器等法が昨年の一部改正され、その中に地域の薬局の機能強化が明記されている。薬剤師の方々の取組には期待しているので、引き続きよろしく願い申し上げます。 ・ 小学校、中学校、高等学校には、学校医と同様に学校薬剤師がおり、啓発活動に努めているが、大学には学校薬剤師がいなかったため、京都市の依頼で本事業を実施している状況である。
<p>議長</p> <p>京都府歯科医師会 岸本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。オーバードーズがかなり深刻な問題であることは皆様御存知かと思うので、引き続きよろしく願いたい。今、アプリの話が出たが、アプリも本当に様々なものが出てきている。どんなアプリでもよいというわけではなく、健康づくりや予防活動に本当に有効なアプリを見極めることも重要であり、これは国も様々推進しているところ。 日本医療研究開発機構（AMED（エーメド））がそのような指針を出しているため、御参照いただければと思う。せっかく利用するのであれば、よいアプリを利用する必要がある。 ・ 先ほど薬剤師会の河野委員から「大学生と歯周病」について言及があったが、歯科医師会としても薬剤師会と一緒に連携事業などができればと思う。 歯周病や歯科健診の啓発チラシ等について、歯科医院はもちろん、歯科以外の団体等の場所・場面で活用することで、より啓発範囲が広がると思う。 これまでのこの会議で、当会からも医師会からも発言してきたが、例えば、がん検診と歯科健診の情報をお互いの周知チラシに掲載するなど、京都市がチラシやポスターを作成する際に、分野を超えたコラボレーションを検討いただきたい。
<p>事務局</p> <p>京都府歯科医師会 岸本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど薬剤師会から御紹介いただいた、大学の講義での御厚意で配布いただいているチラシは、京都市の「歯周病セルフチェックシート」である。 がん検診などと歯科健診のコラボレーションに関しては、これまでも御意見をいただいております、できる範囲で検討してまいります。 ・ 情報共有の機会を増やしていければと思う。薬剤師会には多大な御尽力をいただいているので、我々も薬剤師会のお役に立ちたいと考えている。引き続きよろしく願います。

京都府薬剤師会 河野委員	<ul style="list-style-type: none"> こちらこそよろしく願います。歯科健診だけでなく、医師会に役立つであろう、がん検診の案内などを薬局に置かせてもらっている。
議長	<p>おそらく、今後、松井市長が未病予防に力を入れられるということなので、弊会の会員にもそういった事業の重要性を理解してもらい、しっかり広めていければと思う。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。各自の取組だけではなく、他の関係団体の情報を共有すること、横展開することはとても重要である。そのような連携が進むことを期待する。 ほかに御発言等ございますか。
ヘルシーキャンパス 京都ネットワーク 島本委員	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師会の取組で、各大学に様々配布していただいているとのことであるが、我々は現在、佛教大学、立命館大学、同志社大学、看護大学、京都大学の中で横のつながりを持ち、大学から健康文化を発信していこうと、各大学の保健センターの先生方と一緒に活動を進めている。まだ活発ではない部分もあるが、御協力いただけるようでしたら、御連絡させていただき、様々な活動を共に広げていければと思う。是非よろしく願い申し上げます。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ヘルシーキャンパス京都ネットワークの取組は大切な取組だと思う。 皆様、様々な御意見をいただき、誠にありがとうございました。それでは他に御意見等ないので、議事2に進ませていただく。

② 各分会（生活習慣病予防分会、口腔保健分会、食育推進分会）の実施報告について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料7、資料8及び資料9に基づき、生活習慣病予防分会、口腔保健分会及び食育推進分会の実施報告について説明。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。続いて各分会長からも御発言いただきたい。口腔保健分会長からお願いします。
口腔保健分会 久保庭分会長	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしい様々な取組をされている。特に歯科の分野では、妊婦とそのパートナーに着目した取組が非常に先進的である。 この健診の認知度を上げるためには、産婦人科への周知が最も直接的で効果的なのではないかと思う。機会があれば、産婦人科の先生やスタッフの方々を対象としたセミナーを開催されてはいかがか。 また、口腔機能を失ってしまうと栄養摂取も進まないなど、食と口腔の関係は非常に重要。特に最近では、子どもの口腔機能の発達不全症についても注目されている。高齢者の口腔機能低下だけでなく、子どもの口腔機能を健やかに発達させるという取組も今後重要になってくる。
食育推進分会 廣瀬分会長	<ul style="list-style-type: none"> 食育の取組について、多くの団体で様々な取組がなされていると報告があった。先ほどから何度か指摘があったが、やはりそれぞれの団体同士が連携することが大切ではないかと感じている。 また、大学などでも様々な情報提供をいただいているということだが、無関心層への取組をさらに進めていく必要があると考えている。私自身が大学に所属しているので、健康に関心の薄い学生への取組をより一層進めていきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 御報告ありがとうございました。大学生はやはり重要なターゲットだと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。 それでは、御出席の皆様から御意見、御質問はございますか。
京都府医師会 市田委員	<ul style="list-style-type: none"> 京都府医師会も様々な取組を実施しているところであるが、生活習慣病予防、口腔保健、食育推進について、正直なところ、京都市全体、あるいは京都府全体でどのような取組がどれくらい行われているのか、全体像を把握できていないと感じる。 何かを行うべきだと動機付けをすることは容易だが、それが果たして効率的に機能しているのか、意味のあることをしているのか、重複や不足がないのか疑問に思う。現状では、個々の取組が単発的に多数行われている状況のように感じる。

	<p>先ほど取組間の連携についても議論があったが、どこかで戦略的にこれらを統括し、「このような課題にはここ」と明確に把握できるような仕組みが必要ではないか。</p> <p>この点について、私はこの委員会に初めて参加させていただくので、経緯や、もしそのような取組をされているのであれば、御教示いただきたい。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘ありがとうございます。この「京都市民健康づくり推進会議」は、私が会長を務めて10年以上になるが、特に京都市において、構成員の皆様、様々な専門職の方々や住民の自治的な組織の方々まで、幅広く御参加いただき、かなりの情報が集まっていると認識している。事務局にも熱心に尽力いただいている。 <p>本日は膨大な資料の中から特に特筆すべき部分について説明があったが、こうした活動が単発で終わるのではなく、より連携が進むような機会になればと強く願っている。私からも事務局に対し、改めて連携強化をお願いしたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市田委員から御指摘いただいた「個別の取組が分かりにくい」という点については、確かに様々な取組を進めており、市民の方々、専門の方々にとどのように分かりやすくお伝えするかが課題であると認識している。 <p>今後、取組を進めるに当たり、分かりやすい伝え方、課題や考え方のまとめ方についてもしっかりと検討していきたい。</p>
京都府医師会 市田委員	<ul style="list-style-type: none"> 我々も京都府や京都市から補助金をいただき、様々な事業を実施している。しかし、事業終了後にどれくらいの成果があったのかをきちんと説明しないと、翌年から補助金が下りないということになる。報告書には「何人参加し、どれくらいの成果があったのか」といった具体的な情報を盛り込んでいただきたい。 <p>可能であれば、「この取組を実施した結果、例えば疾患が減った、救急搬送が減った」といった具体的なデータが見えるようになれば、「この取組は良かった」という評価ができる。そのような報告がいただけるよう、事業の設計段階から御検討いただきたい。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。国においても、指標を定めることの是非を含め、様々な議論がされているが、やはり指標を定め、それに向けた取組を策定することが重要である。どのようなプロセスで最終的なゴールを達成するのか、我々が願っているゴールとは何なのかを押さえておく必要がある。 <p>闇雲にやれば良いというものではなく、どのようなプロセスで、どのような指標があり、何がインプット、アウトプット、アウトカムとして最終的な</p>

<p>京都市PTA連絡協議会 塩見委員</p>	<p>インパクトにつながるのか、非常に難しいことであるが、事務局には整理をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、様々な会議に参加させていただき、多くの知識を得ることができた。意見交換を通じて、「保護者という立場で、どのようなことを伝えていくべきか」を考える機会を得ることができた。地域のことに関して、市役所もそうだが、京都市内には区が多く存在し、その中に学区があり、各地域では自治会などが様々な活動をされており、それらをまとめるのは非常に大変だと感じる。 <p>確かに重複している活動も多く、「たくさん歩きましょう」といったイベントも非常に多い。一方で、本当に身近な情報しか届かないものの、その情報によって健康を維持している高齢者の方々も多数いらっしゃる。「区役所の活動は知らないが、自分の学区の活動には参加している」という方も多くいらっしゃる。</p> <p>直接大掛かりなことを始めるのはハードルが高いかもしれないが、まずは区役所や学区が横断的に連携し、地道な活動を行うことが重要。また、大学生の中には、自分の大学の活動をあまり知らないという学生もいる。これからは担う大学生が様々な企業と連携し、多くの知識を得ることで、就職先の選択肢が広がったりする。大学だけでなく、小さな地域からコツコツと何かを広げていければと考えており、地域の私たちもその努力をしなければならぬ。意欲のある人が増え、少しでも活動が続いていくよう、私からも声をかけていきたい。</p>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。身近なところからの広がりも重要である。 <p>また、身近なことが京都市などの公的な機関によって推進されているとなれば、安心してそこに参加できるということもあると思う。</p> <p>ほかに何かございますか。</p>
<p>京都府歯科医師会 岸本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市田委員がおっしゃったように、事業が分散化・細分化しているのだと思う。この会議は、各部会をまとめる親会議の位置付けにあると認識している。歯科は生活習慣病や歯周病予防にも深く関わっている。食育・栄養の部分についても、我々は食べる口を作っていくことを生業としており、どの部会にも関わりがある。それぞれに関わっていて感じるのは、他の部会ではどのようなことを行っていて、それがこの親会議の中でどのような位置付けにあるのかということが見えにくい。 <p>本日も繰り返し「連携」という言葉が出たが、各部会の中だけでは連携を図ることは困難である。この親会議で連携をしていかないと、事業だけが増えていってしまうことにもなりかねないので、是非そのあたりの検討をこの親会議の場で行っていただきたい。</p>

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。連携する意識があるのとないのとでは全く異なる。改めてになるが、事務局や各構成団体、そして私自身も意識して取り組んでまいりたい。 オンラインの市民公募委員の方も含め、ほかに何かお気づきの点があれば、御発言いただきたい。
ドブス委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ等を拝見しているが、それでも知らない取組がたくさんあり、各団体等でこれほど多くの事業が実施されていることに驚いている。 私は看護師であるため、病院勤務の視点から申し上げますと、やはり生活習慣病の予防は非常に広めていきたいことの1つである。若年から糖尿病を発症するケースや、最近ではスマートフォンやゲームの利用が多い子どもたちの間で視力に関する問題を抱えている方が多く見受けられる。日々の生活の積み重ねが大きな病気を招くことから、そこにアプローチしていきたいと考えている。病院に勤務していると、病気になった方と接することが多いため、予防への介入や情報収集が難しい側面があり、それが本会議の市民公募委員となった理由の1つでもある。 生活習慣病をもっと「自分ごと」として捉えられる社会になればと思う。 がん検診についても、受診できる人がもっと受けるべきだと考える。例えば、前立腺がんは検診のハードルが高い印象があるものの、初期に治療に取り組めば比較的予後が良いケースも多いため、検診の重要性を感じている。子宮頸がんの患者さんもいらっしゃるが、20代、30代で発症し、命を落とされている方も少なくない。そのような現実も伝えながら、私も何か貢献できればと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。生活習慣病と聞くと、大人の高血圧、糖尿病、脂質異常などを思い浮かべがちだが、若年層の生活習慣病もかなり深刻な問題である。 それでは、もう一人の市民公募委員である鳥本委員からも一言お願いしたい。
鳥本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も部会に参加させていただき、多くの情報を得ることができた。私は現在、子どもたちへのスポーツ指導や、ランニングしながらパトロールをするボランティア活動などを行っている。現在活動に参加されている方や地域の方からは、「一人では継続が難しい」「子どもの用事があるため、一人ではできないが一緒に参加したい」という声がある。また、女子大学生からは「夜に一人で走るのとは何かがあるか分からないので、一緒に走ってほしい。」という声も聞く。

議長	<p>運動だけでなく、健康の取組全般において、一人では継続が難しいと感じる方が多いため、今回の会議を通じて、一緒にできることや、そのきっかけ作りをもっと増やせたら良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。「プラスせんぼ」の取組もあるが、確かに誰かと一緒にあれば継続しやすいという側面もある。それは高齢の方も若い方も同様。また、京都市では、様々な取組に対して表彰を行っているので、このような取組が表彰されれば、よりPRにもつながりかと思う。 ・ それでは、議事3に進ませていただく。
----	--

③ 京都市健康づくり・口腔保健・食育推進プランに関するアンケート調査実施について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料10に基づき、京都市健康づくり・口腔保健・食育推進プランに関するアンケート調査実施について説明。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去のアンケートの回答率はどれくらいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ おおよそ40%程度となっている。
京都府歯科医師会 岸本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単に回答できるものでないと回答率が低くなると思うので、是非簡単なアンケートにしていきたい。また、若い世代向けにインターネットで回答できるものがよい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何ページぐらいのアンケートになるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙の案内文を含め12ページのアンケートとなっている。また、各設問は選択式とし、回答いただきやすいものになっている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象年齢の上限は設定しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象年齢の上限は設けずに、住民基本台帳からの無作為抽出により、対象者を選定する予定。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象年齢の上限については、検討の余地があるかもしれない。 90歳以上の方も対象に含まれているかと思うが、これらの方々には、ほかのより適切なアプローチ方法があるかもしれない。 年齢別の回答率は把握しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢別の回答率について確認のうえ、改めて共有させていただく。

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。アンケート結果の報告はいつ頃になるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時期は未定であるが、来年度の各部会及び本会議の場で報告させていただく。

④ その他意見

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を通して、何か御意見等ございますか。
京都市地域女性連合会 秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性会も高齢化が進んでおり、若い方でも50代、高齢な方だと90代の方もいらっしゃる。フレイル予防の観点から学区ごとに体操をしたり、地域ごとでの活動を行っているが、会員数も減少している状況。 自分は健康だと思っけていても、がんで亡くなられる方もいらっしゃる。 自分の健康を過信せず、がん検診などで先生に見ていただき、自身の身体の状態を定期的に確認することが重要であると思うので、引き続きよろしくお願ひする。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ おっしゃるとおり、自分は健康だと思っけている方ほど気を付けなければいけない。是非かかりつけ医を見つけていただきたい。 ・ 本日は皆様どうもありがとうございました。以上で、議題を終了させていただきます。

(3) 閉会挨拶 京都市保健所長 池田 雄史